



# 地域で守る 組織で守る

## ●小さなため池ほどマメな点検を

昨年の西日本豪雨では、小さなため池の被害が多かった。

小さなため池は、個人、集落などで管理しているものが多く、管理者が定期的な点検ができない場合、災害につながるシグナルを見落とす可能性がある。

点検の方法や頻度などは、「ため池管理マニュアル」（平成27年10月 農林水産省農村振興局整備部防災課）を参考に、今後、地域のため池をどのように維持し、活用していくのか。これを機に、みんなで話合ってみることも大切だ。



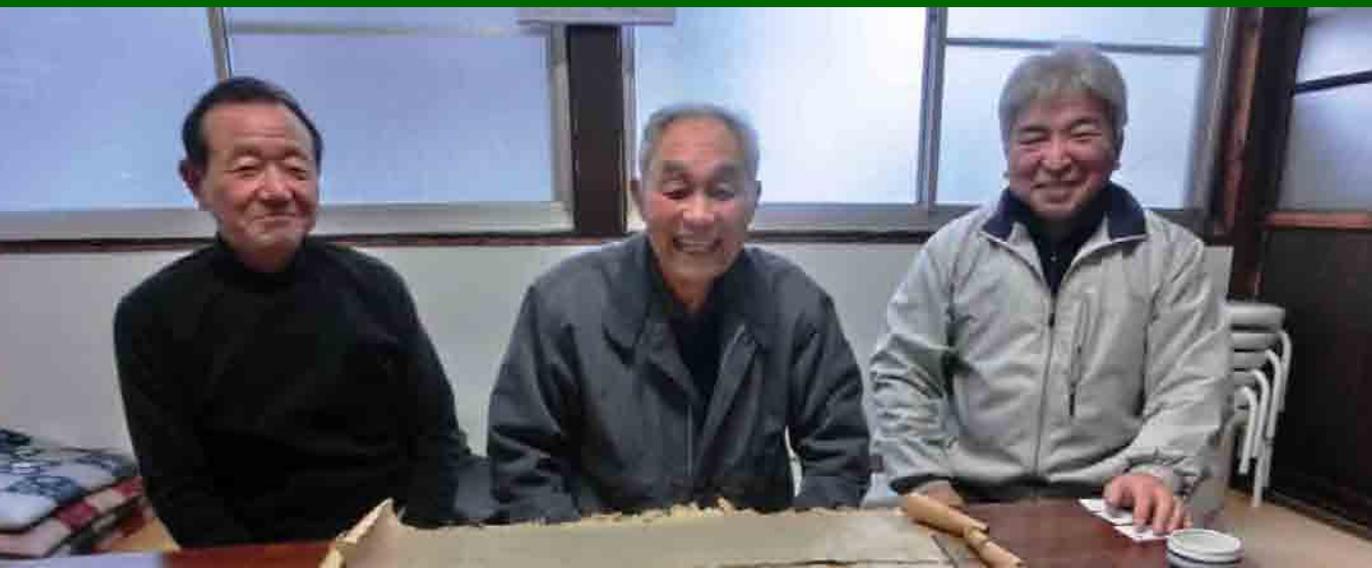
ため池堤体の“はらみ”を目視点検

## 農業用ため池を緊急点検

平成30年7月、西日本を中心に広範囲、かつ長期間にわたる大雨が続き、各地で甚大な被害が発生した。そこで、被害状況の迅速な把握、応急対策の実施、事前の防災・減災対策として、8月末までに、全国の農業用ため池の緊急点検が実施された。

山形県では、392か所のため池について、管理者、市町村・県担当者、山形県土地改良事業団体連合会が、目視点検を行い、応急措置が必要と判断されたため池は無かった。

# 『私たちが点検しています』 庄内町三ヶ沢地区活動組織 みかざわ



前代表 村上さん、元代表 乙坂さん、現代表の長谷川さん

## 先人に学び今の管理に活かす

三ヶ沢地区には、乙坂さんが保存してきた古い図面がある。

ため池とその周辺の水路、下流域までが記されたその図面は、地区でため池を維持していくには、ため池そのものの管理も大事であるが、周辺の山林や水路も適正に管理されてこそ、効果的に活用される、という先人の教えでもある。



## 点検を兼ねた草刈り作業

三ヶ沢地区活動組織は、三ヶ沢集落住民、耕作者、老人クラブ、PTAなど、60名で構成する多面的機能支払交付金の活動組織である。組織が管理するため池は、「大沢堤」と「大沢二番堤」。毎年6月に、草刈りや泥上げを実施しており、その下流水路も管理対象施設として位置づけられている。

乙坂さんは、「用水の不足はなく、ため池を使う機会は減っているが、防火水槽の役割として、地域として守るべき重要なため池」という。

ため池の草刈り作業は、地域の若者も参加して10名程で実施する。乙坂さん世代が幼いころから親しんできたため池は、交付金事業をきっかけに、地域で守る体制が整ったといえる。



組織による定期的な草刈りにより、堤体の漏水や亀裂などが確認でき、前回と比較することで、異状の発見につながって